



# 昭和45年 国勢調査のあらまし

ことしの十月一日には、十一回目の国勢調査が実施されます。国勢調査は、全国、都道府県市町村の人口の大きさや構成を明らかにし、国の政治や行政はもとより都道府県や市町村の行政に直接役立つ資料を得るために行なわれるものです。

国勢調査は、大正九年に第一回調査が実施されて以来、五年ごとに行なわれおり、今回の調査は満五十年、半世紀を迎える記念すべき調査です。

また、今回の国調は、国際連合が提唱している千九百七十年世界人口センサスの一環ともなるものであります。

## ことしの調査の特色

近ごろ、日本では経済のいちじるしい発展がつづいています。

これにともなって人口の地域間の移動がはげしく、過密、過疎という現象で特徴づけられるようになります。市町村の人口の大きさや構成は、非常に変わっていきます。

今回の調査では、このような人口の変化的状況をくわしくするた

めに、集計の内容を大幅にひろげるとともに、市区町村内の小地域別にも、統計を作成し、また人口移動に関する統計や通勤、通学に関する統計を充実することにしています。

なお、今回は十年に一度の大規

さらに、経済的な面ばかりではなく、社会的側面にも重点をおいた統計、たとえば、世帯や住宅に関する統計も豊富に作成します。

この調査では、このように人口の変化の状況をくわしくするため、集計の内容を大幅にひろげるとともに、市区町村内の小地域別にも、統計を作成し、また人口移動に関する統計や通勤、通学に関する統計を充実することにしています。

さて、この制度に加入できる者は、この条件のすべて満たしている者であります。

ただし、六十五才以上の加入者はこの制度に二十年以上継続しているものは掛金が免除されます。

これは、因習、しきたりにとりかこまれてきた農村の生活も「働き、働く」というだけでは、通用しなくなってきたことを示してお

り、農村生活の不合理さが、人間生活の場所としての魅力をなくさせている大きな原因ででしょう。

茨城県もこの数年間、地域開発の進展により、工業化、都市化が急速にすすむと共に、農村は電化器具、自動車の普及により生活様式が大きく変りつつあります。生

産面でも大型の農業機械や多頭飼育の畜産がふえ、今までの曲りくねった道路、昔ながらの住宅、屋敷内の畜舎などを思い切って改

善しないと、農村はますます住みにくくなってしまいます。このよ

うに、農業生産の改善に合わせて、農家の家屋敷をはじめ、集落全体の構造を改めようとするのが田園都市の考え方です。

最近は農家の生活改善も部分的に進んできましたが、いまいちばん必要なのは、部分的な生活改善ではなくて生活構造の改善ある

ことです。来客本位から家族本位への住宅構造改善、これが

第一の課題です。

第二は屋敷の構造の改善です。

これまで農家の屋敷は住宅を含め

て生活と生産の場を兼ねていまし

た。また家畜とも同居の生活でし

た。最近のように多頭羽飼育の畜

産が入ってくると、家畜との同居

はどうしようもなくなります。

そこで生産の場を分離し、屋敷は

人間生活の場として、屋敷まわり

のこさ払いを徹底し明るく美しい

屋敷の改善をはかることが第二の課題です。

## 田園都市計画の手続

### き

### た

### ら

### う

### る

(3)

昭和45年 8月25日

き た う ら

# 農家意識調查

ます。これを保険料の前納といい、前納すると、いちいち保険料を納める手数が省けるし、納め忘れたりすることもなく、そのうえ年五分五厘で計算した割引もあって有利です。

なお、所得比例保険料を滞納すると、所得比例制度を脱退したものとして取扱うことになってしまふから、滞納のないよう注意してください。

七五%が現状を維持したい  
将来の 野菜類・いね・施設園芸  
主な部門

主な部門の  
将来

野菜類・いね・施設園芸

将来の農業経営について、どのように考へてゐるかについては、現状維持が七五%と非常に多い。

**野菜類**の七〇%を占めている。いわば生産調整等諸問題をかかえているが、将来も主要穀物としての生産の中心になるだろうと考えられる。

国政公聴会開く  
9月21日 宇都宮市で

この公聴会は、政府の施策に関して、直接国民の意見、要望等をきき、国政の参考にするとともに、行政施策に対する国民のより一層の理解と協力を得るため、政府の所信を率直に訴える主旨で春秋の二回開かれるものです。

に、北関東（群馬、栃木、茨城の三県）の方から、大都市周辺の公害、交通、物価、総合農政および土地住宅問題についての意見、要望をきき、内閣総理大臣、関係各省大臣の答弁を行うことになっていきます。

この制度は、余分に保険料を納めてよいから、その分だけ多く年金を受取りたいという国民年金加入者からの強い要請に沿って、新しく設けられたものです。定額保険料四百五十円のほかに、三百五十円の所得比例保険料をそれぞれ二十五年納めた場合は、定額部分九万六千円の年金額に五万四千円の所得比例部分の年金額が加算

## 有利な前納制度も

年(一十五万円支給

月八百円の保険料で

きあじまをま  
夫が所得比例制度に加入した場合  
の支給不満は老齢年金額の例

の夫婦で受け取る老齢年金額の例				
保険料納付 する期間	定額分	所得 比例分	計	
25年納付 の場合	夫 96,000円	54,000円	150,000円	
	妻 96,000	—	96,000	
	計 192,000	54,000	246,000	(20,500円)
30年納付 の場合	夫 115,200	64,800	180,000	
	妻 115,200	—	115,200	
	計 230,400	64,800	295,200	(24,600円)
40年納付 の場合	夫 153,600	86,400	240,000	
	妻 153,600	—	153,600	
	計 307,200	86,400	393,600	(32,800円)

また、国民年金と厚生年金など他の年金制度の加入期間とを合わせて受けた通算老齢年金の額も、これと同じように計算されます。しかし、障害年金、母子・準母子年金、遺児年金には所得比例分の加算はつきません。

詠進歌の墓集

1. 昭和46年歌会始のお題は「家」と定められました。  
(注) お題の家は、具体的な建造物の「家」ばかりではなく、抽象的な「家庭」を題材としてもけつこうです。
  2. 詠進歌の詠進要領
    - 一人一首限りとし、未発表の歌であること。
    - 用紙は、半紙を用い、毛筆で自書のこと。
    - 書式は、半紙を横に二つ折りにして、右半面にお題と歌を、左半面に住所氏名（本名、ふりがな）生年月日及び職業をかくこと。
  3. 詠進の期間  
9月1日から10月12日まで
  4. あて先  
〒 100 東京都千代田区千代田1番1号「宮内庁」



## 道路を守りましょう

=道路に田畠の草やゴミを捨てないでください=

村では道路をよくするために、本年度は5,300万円（村の一般会計当初）のお金を使っています。しかし、お金をいくら使っても、みなさんの協力がなくては、立派な道路を維持して行くことはできません。道路を良くして、気持よく通れるように次のことにご協力ください。

- ④ 道路に田、畑の草やゴミを捨てないこと。
  - ⑤ 下水や陸田の水を道路に流さないこと。
  - ⑥ こさ払いをすること。

あなたの畠には、茶や桑の木が植えてありませんか。そして、その枝が道に出ており、通行のきまたげになってしまいませんか。もし、そのような所がありましたら、すぐこさ払いをしてください。見通しをよくすることは交通事故の防止にもなります。

